

# 海難救助活動レポート

平成22年における海難救助出動件数は12月末現在357件で、320人の人命救助と148隻の船舶救助に関わりました。全国の統計でみると、海難救助に出動した救難所員は述べ5,096人、救助船は延べ1,979隻、協力船は延べ235隻でした。

これを昨年の同時期と比較すると、出動件数では90件減少し、救助人命は59人の減となっています。出動した救助船

は1,327隻の減で、出動救難所員は5,617人の減となっています。平成21年は例年と比べて出動件数が多かったことに加え、1件当たりの出動救難所員が特に多かったことから、平成22年との差が大きくなりました。

## 連携プレーで高波から高校生を救う

NPO長崎県水難救済会千々石救難支所

平成22年7月28日午後2時20分頃、千々石海水浴場の高波があるところで高校生が遊泳していた。救難所員が注意しようと遊泳地点に向かったところ、高校生が高波にのまれたため、救助が必要になった。救難所員1名は付近にある救難所に救命胴衣を取りに行き、もう1名



が警察署に通報。救命胴衣を受け取った残る1名が海中に入り遭難した高校生に救命胴衣をつかませ、陸上の救難所員2名がロープを投げ高校生を浜へ引き上げた。高校生は海水を大量に飲み病院に搬送されたものの、命に別条はなかった。

NPO長崎県水難救済会  
千々石救難支所  
吉岡 靖彦さん 平野 竜磨さん 平野 竜磨さん

## 燃料切れにより漂流した船を岸まで曳航

NPO能登水難救済会珠洲救難所



平成22年8月28日午後2時頃、珠洲市の鉢ヶ崎海水浴場沖で釣りをしていたプレジャーボートB丸は燃料が切れ、予備燃料タンクに切り替えようとした。しかし、燃料ホースの接続部を破損、漂流する事態となった。帰宅が遅いため、家族が警察に通報。警察が保安部署に連絡し、巡視艇や救助艇などによる夜間捜索が行われた。

29日午前2時頃、海上保安庁の航空機が該船を発見、巡視艇にて曳航。出動していた珠洲救難所の救助船さざなみは途中から曳航を引き継ぎ、金川河口の係留地に着岸させた。

NPO能登水難救済会  
珠洲救難所  
所長 福光 鹿良さん  
梶 雅彦さん 従二 恵二さん  
向 将司さん 向 修平さん

## 転覆防止を図りながら座礁船を救出

鹿児島県水難救済会枕崎救難所



平成22年9月14日午前1時30分頃、漁船A丸は枕崎漁港へ航行中、枕崎市火之神岬町地先岩礁にて座礁。乗組員本人より指宿海上保安署へ通報があった。

出動要請を受けた枕崎救難所および救難所所属船にて情報収集と状況把握を行った後、転覆防止措置を施し自然離礁を待った。午前9時38分に離礁したため、救助船千恵丸で当該船を枕崎漁港へ曳航し、午前9時50分に入港した。

この事故によるけが人はなかった。船の被害状況はエンジンルームに浸水したのみで、油漏れもなかった。

鹿児島県水難救済会  
枕崎救難所  
松永 富満男さん 松永 真二さん  
栄村 千秋さん 栄村 広秋さん  
禰占 敏弘さん 山神 幸伸さん  
俵積田 謙三さん

## 強風の中、座礁した船から乗員を救助

青森県漁船海難防止・水難救済会竜飛救難所

平成22年10月16日午後2時頃、竜飛シーサイドパーク管理棟より、水中撮影していたダイバー2名のうち1名が消息不明との連絡が竜飛救難所に入った。外ヶ浜警察署および海上保安部に連絡するとともに、同行していたダイバーから情報収集。大時化で船を出港させることが困難であったため、潜水した場所の付近を徒歩で捜索することとし、救難所員を招集した。捜索したところ、湾になった箇所フィンだけ見えている状態の遭難者を発見。捜索していた海上保安庁のヘリコプターに連絡し、救助が行われた。その後、遭難者の水死が確認された。



青森県漁船海難防止・水難救済会  
竜飛救難所  
所長 伊藤 逸雄さん  
伊藤 春光さん 伊藤 繁美さん 沢谷 秀一さん 三浦 市雄さん 伊藤 静雄さん  
沢谷 繁春さん 工藤 俊次さん 成田 富一さん 吉田 利智雄さん 伊藤 文雄さん  
牧野 武春さん 三浦 鉄三郎さん 水島 光弘さん 伊藤 繁一さん

### 和歌山県水難救済会紀南西部救難所三尾支所

平成22年10月16日、釣り人2名はミニボートに乗船し、美浜町にある逢母海岸沖で釣りを行っていた。午後4時頃帰港のため船外機を始動しようとしたが、バッテリーの過放電により動かず、航行不能となって110番通報を行い、救助を要請した。  
三尾支所の救難所員は和歌山県警の美浜駐在所・田

辺海上保安部より出動要請を受け、午後5時頃、救助船に警察官1名を乗せ出動。10分後、逢母海岸南方沖約2,000m付近で漂流中の該船を発見し、午後5時20分頃、三尾漁港の岸壁へ曳航した。遭難者にけがはなかった。

### 山形県水難救済会念珠関救難所

平成22年9月1日午前10時30分頃、国道を走行していた通行者が海上に異常な様子の漁船を発見。確認したところ、船に人がしがみついていることがわかった。もう1人の通行者から連絡を受けた念珠関救難所の救難所員が現場に駆け付け、岸から50～60mのところに該船が位置していたため、泳いで救助に向かった。

午前10時40分頃救難所員は船に泳ぎ着き、直ちに転落者を船に引き上げて小岩川漁港に向かった。10分後に入港し、着岸。待機していた救急隊員が船に乗り移り転落者に呼びかけたところ意識はしっかりしていた。午前11時頃、転落者は救急車で病院に搬送された。

### 伊豆地区水難救済会伊東救難所

平成22年11月11日、遭難者Cは釣り船Dに単独で乗って伊東港を出港。手石島付近で釣りをしていたところ、午後5時17分頃、脳出血を発症。携帯電話で家族に助けを求めた。下田海上保安部は家族から事故発生の通報を受け、午後5時50分頃、伊東救難所に救助出動要請を行った。救難所員6名が2隻の救助船で出動、手石

島の浅瀬に座礁している釣り船Dを発見し、接近を試みた。しかし、自船も座礁する危険性があったため、救難所員1名が曳航索を持参して海中に入り、釣り船Dに乗り移った。曳航索を用いて釣り船Dを離礁させ、該船を下田海上保安部の監視取締艇に引き継いだ。遭難者Cは救急搬送され、一命を取り留めた。

### 青森県漁船海難防止・水難救済会平内町救難所

平成22年9月10日午前5時30分頃、遭難者Gは1人で漁船Hに乗り出港。午前7時40分頃、帰りの遅いことを心配した家族が携帯電話で連絡を取ろうとしたが電話が通じず、知人の漁業者Iに確認を依頼した。Iが海上を捜索したところ、漁船Hは発見したもののGを確認することができなかったため、平内町救難所茂浦支所へ応援

を要請。救助船8隻が出動した。  
救難所員3名が漁船Hに乗り込み船周辺を確認したところ、午前9時20分頃、アブラメ籠のロープに右足首が絡まっている状態のGを水中で発見。水中から引き上げた。

### (社)北海道漁船海難防止・水難救済センターえりも救難所

平成22年7月20日、採りこんぶ漁業を行っていた漁船E丸は、午前4時50分頃、濃霧となったため笛舞漁港へ帰港しようとした。しかし前方の視界が不良で笛舞漁港を見失い、陸上の目視もできず、行き先不明状態となった。その後、沿岸域と思われる海上に標識竿を発見し、E丸をつないで救助を待つこととした。E丸が帰港しない

ことから、午前5時頃、地元漁業者による捜索が開始され、午前6時15分頃えりも救難所長に協力要請が行われた。所長は救難所員を出動させるとともに浦河海上保安署に通報。地元漁業者・救難所員による捜索に加え、海上保安部による上空からの捜索が行われた。午前8時40分頃該船が発見され、えりも港に向けて誘導された。

### 福岡県水難救済会相島救難所

平成22年10月31日午後4時頃、相島北川の鼻栗瀬付近で釣りをしていた遭難者Jが帰港しようとして船外機を始動しようとしたが、電圧不足により始動せず、漂流状態となった。Jに救助を求められた知人が現場に向かったものの発見できず、日没も近づき波浪も高く捜索が困難になりつつあったため、相島救難所に救助要請が

入った。  
救難所長は救難所員を招集し、直ちに捜索救助に向かった。鼻栗瀬約500m付近でレーダーに船影を見つけ、該船を発見。相島港に曳航した。  
該船は相島港でバッテリーチャージが行われ、翌朝帰港した。

### 山口県水難救済会仙崎救難所

平成22年8月14日、遭難者F他1名はプレジャーボートに乗船して仙崎漁港に向けて帆走中、午前7時15分頃、王子鼻灯台から真方位281度約1,200mにおいて乗り揚げた。  
仙崎海上保安部の要請により、仙崎救難所は救助船市丸と第二裕真丸を出動させた。

現場到着後、第二裕真丸は該船の引き出し作業を行い、午前9時15分頃離礁に成功。  
その後、市丸が該船を仙崎漁港まで曳航し、午前10時頃救助が完了した。

### 千葉県水難救済会房総広域救難所

平成22年9月5日、富津岬で会社の同僚とともにバーベキューに興じていた遭難者Kは、付近で水上オートバイを遊走させていた別グループと意気投合。救命胴衣を着けずに3人乗りオートバイの最後尾に同乗した。遊走していたところ、午後3時20分頃、オートバイが転覆。乗船者は海中に投げ出された。再度オートバイに乗り込

み1分ほど航走した後、操縦者がKの姿がないことに気付いた。  
海上保安署の巡視艇や特殊救難隊、富津警察署などとともに房総広域救難所の救難所員も捜索に当たった。翌6日の午前9時35分頃、水深2mのところKが発見され、救難所のダイバーがKを水面に引き上げた。

### (社)北海道漁船海難防止・水難救済センター知内救難所

平成22年8月19日午後0時40分頃、木古内警察署より「上磯郡知内町字中ノ川の木古内自動車学校前の海岸にて、68歳男性が波に流され行方不明となったため、漁船での捜索を願いたい」との電話連絡を受けた。  
ただちに救難所長に報告するとともに救難所員に出動を要請。午後0時50分頃、現場まで500mの中の川漁

港より救助船が出動した。  
3隻の漁船に救難所員が分乗し、現場到着後すぐに捜索を開始。午後1時23分頃、遭難現場より150m南方にて海面に浮遊する遭難者を発見。直ちに引き上げ人工呼吸蘇生措置を施しながら、中の川漁港に午後1時25分

### 三重県水難救済会伊勢湾北中部地区海難救助連絡協議会鈴鹿市漁協救難支所

平成22年9月6日午前8時頃、鈴鹿市白子沖で漁をしていた漁船L丸の船長の目を、巻き揚げ装置につないでいた錨が直撃。船長は左眼球破裂の重傷を負った。海難事故発生の無線連絡が入り、近くで操業していた救難支所所属の第2大章丸が急行、L丸の船長を収容して白子港

に搬送し、救急車に引き継いだ。一方、L丸は同じく救難支所所属の第18嘉栄丸に曳航され、白子港に寄港した。